

## 「国民の水への関心」

### NHKクロローズアップ現代に 寄せられた意見



よしむら  
かずなり  
吉村 和就

(グローバルウォーター・ジャパン代表  
国連テクニカルアドバイザー)

去る十月二十三日のゴールデンタイムに放送されたNHKの「クロローズアップ現代・日本の技術を活かせ③水ビジネス」、番組の視聴率は一%で、国民の十人に一人以上は、この「水ビジネス」を見ていた計算になります。スタジオ・ゲストとして呼ばれた筆者、三ヶ月前からNHK取材陣に取材先の紹介や論点を助言してきたが、番組終了後は全国の視聴者から多くのコメントがNHKに寄せられ、日本国民の「水に対する関心の深さ」が感じられた、その一端を紹介したい。

#### 一、NHKクロローズアップ現代は生番組

放送当日、二時間前にNHK放送センターに入る。控え室でクロローズアップ取材陣が国内外を三ヶ月に渡り収録、編集したビデオを初めて見る、字幕は入っていない。NHK側の台本があるが、当方のせりふはもちろん一切無し、担当ディレクターからビデオを見てコメントを纏めるように指示があった。

その時、担当ディレクターから興味ある話を聞いた。「国谷キャスターは燃えています、今日の水の話に……」それは？ と聞くと「第一夜の電気自動車、や第二夜のソーラーパネルは国民のほとんどがこの技術開発に世界中の大企業が鍋しんを削くっていることを理解しています、しかし国谷キャスターは私たちが毎日接する水分野の技術、日本の技術が世界で一番、これに感銘を受け勉強しているようです」と。その後、国谷裕子キャスターと打ち合わせ。国谷キャスターはすごい質問魔である。「なぜ日本は外へ出てゆけませんか?」「日本版水メジャーはどうしてつくれないのですか?」さらに「世界の市場、



日本の市場、現在の課題を三十秒でまとめると、どういう事になりますか？」これには参った。

如何に知識を持っている人でも、国民に判りやすく、しかも三十秒でまとめることは至難の業であろう。スタジオ・ゲストも命がけである。

国谷キャスターは、何気なく聞いてくるが、その背景には、水関係の多くの知識が感じられる（国谷キャスターの事前の情報収集が凄い、これが十五年以上番組を支えている原動力と思う）クローズアップ現代、毎日テーマが変わる。良く勉強ができるなと思う、また毎回、その分野のオーソリティーと対談するためには、業界用語や、その背景を熟知しなければ会話にならない。国谷キャスターにとり毎日が受験勉強であろう。スタッフに聞くと、毎週金曜日は大きな紙袋に翌週の放送予定の資料を詰め込んで帰るとのことである。土日が最大の勉強時間であろう。その気迫が視聴者の心を揺さぶるのではないかと思う。

放送十分前、スタジオリハーサル。そして秒読みが始まる、全国一斉の生番組、関係者の緊張が走り放送が始まった。

## 二、国を挙げて水ビジネスに取り組み

海外取材のVTRでは、フランスの水メジャーの動きやシンガポールが国を挙げて、水ビジネスに取り組んでいる様子が放映された。このような海外の動きに対して、国谷キャ

スターから「日本には良い技術が有りながら、なぜ世界に出て行けないのか」また「日本はどう戦うべきか」のコメントを求められた。

筆者は「日本の水行政はバラバラで、まず六省庁を束ねる組織が必要だ」、「英文で情報発信しなければ、誰にも認知されない」、「ODAの改革の必要性」、最後に「日本には百年以上に渡る水に関しての経験やノウハウがある。これを持って世界貢献につなげよう」と締めくくった。

## 三、番組に寄せられたコメント

番組終了直後からNHKに全国の視聴者から多くのコメントや感想が寄せられた。関係者から聞いた内容を紹介する。

- 改めて水の大切さを知りました、近い将来、水を巡る戦争にならないか心配です。
- 水ビジネス、日本が遅れた理由が良くわかった、ゲストの声のトーンが良い
- 日本は政治主導で水資源を確保しろ
- 水問題、わかりやすくとても参考になりました。
- 水問題を再認識、頑張れ日本
- 大切な水、家族皆で正座して見ました。
- 水商売の現状を知りいささか驚きました。日本のシステムが世界に通用させられないこ

- とが改めて知らされ、呆然。
- 各省庁バラバラ、水に限らず、すべてそうですね。
  - 食料、水は覇権国家を目指す最大戦略だ、日本しつかりしろ
  - 日本がこんな、状態にあることを知らなかった。
  - 水処理メーカー、ゼネコン、電機メーカーなどトップの技術が全てそろっている。世界に冠たる商社が控えている。にもかかわらず日本に「水メジャー」がなぜ生まれないのか？
  - 個別企業の優秀性を聞かされる度に世界に出て行けない不思議を感じる。
  - 国家戦略と企業の連携で世界の市場に通じるノウハウを身に付けてほしい、日本の技術力に勇気づけられた。
  - ODAのあり方を見直すべきだ。
  - ゲストの最後の言葉「水の技術をもって世界へ貢献する」が心に残りました。
  - 水の番組もっとお願います。

#### 四、筆者に寄せられたコメントも様々である

- いつものようにガツンと言え、生ぬるい
- 水問題が、ゴールデンタイムに流れるとは、えらい時代になった。

- 家内と娘の印象では、非常に判りやすい番組だった。
- ドキドキしながら番組を見ていました。
- もっと言いたいことがあったと思う、時間の制約か
- 維持管理や漏水防止の内容にも触れて欲しかった。

このように水の関係者から、厳しくも暖かいコメントを頂いたことに感謝です。

特に嬉しかったのは、親しい友人からのメールである。この放送時間（午後七時三十分）には家に不在のため、「家内にビデオ撮ってくれ」とお願いし、その後帰宅したところ、番組を見た家内と娘が「お父さんお帰りなさい、お父さんって、水のすごい仕事しているね」と尊敬の念を持って迎えられるエピソードであった。

さらに数日後、国谷キャスターからメールを頂いた。

「短い時間で日本の水ビジネスの課題をわかりやすく解説していただきNHKスタッフ一同感謝しております。

今後、様々な角度から水問題を今後も取り上げていくことになるのは間違いありません。今後ともよろしく願っています」と。

一千万人以上の人が見たNHKクローズアップ現代、このように多くの国民から水への関心が示された。

水関係者の一人として、更に気を引き締め「世界の水・日本の水問題」の解決に取り組んでゆこうと決意を新たにした瞬間だった。